

知恵袋 (その 17)

一度廃線になった路線の運行再開に向け、市民運動が関係者を動かし、自らもサポーターとなることで運営を支援

～えちぜん鉄道～(福井県)

- ・市民運動がトリガーとなり、行政・政治、住民を動かした。このなかで様々なキーパーソンを連携させたことも重要。また市民の苦い経験(運行停止)が運行再開への意欲と結びついた。
- ・地元住民に支えられた仕組みをつくること、身の丈にあったきめ細やかなサービス提供が成功の秘訣となっている。

利用者がV字回復

- ・トレンドと比較すると平成20年で約77万人の増加と推計。

行政からの支援額が減少

- ・平成20年の2.2億円/年から、平成21年には1.8億円/年に減少
- ・地元住民、企業、行政、鉄道事業者が連携して、運行を支えることで再開後には、利用者が増加し京福電鉄時代の予測を77万人上回った。(平成20年度)

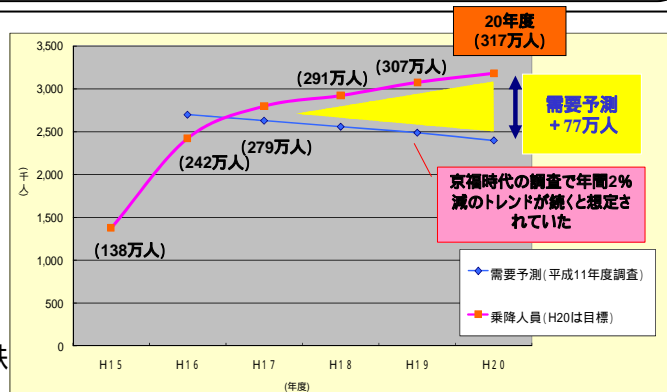


図 3-23 平成 15-20 年度利用者数の推移 (京福電鉄時代のトレンドとの比較)

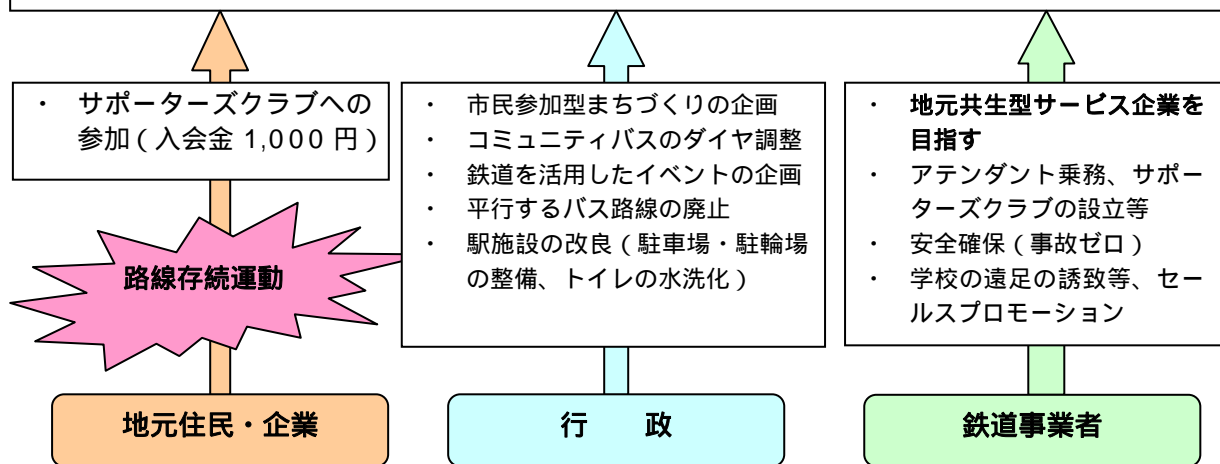


写真 3-15 えちぜん鉄道とアテンダント (出典) えちぜん鉄道(株)ホームページ

ここもチェック!

<巻末参考資料-1: 地域のモビリティ確保の知恵袋>
P.参-8 ~ P.参-10、P.参-71 ~ P.参-73